

むくげ通信 296号 2019. 9. 29

うたごえ運動で歌われた朝鮮の歌（5） 山根 俊郎

「青年歌集」11冊を購入

私は、2019年7月16日にヤフオクで「青年歌集」11冊セットを1,000円で購入した。
（別途に送料510円必要）

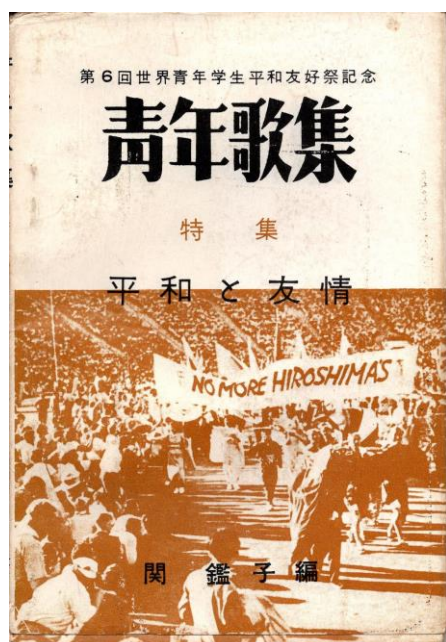
保存状態はとても良かった。

内訳は第1篇～第7編＝1961年再版、第8編＝1962年再版、第9篇＝1965年再版、第10篇＝1969年初版のものである。表紙は初版と同じく若い女性たちが合唱している写真で飾られていた。サイズは初版と同じである。

値段は、100円である。その後、1970年に全編が内容は同じで、表紙だけ変更して200円に値上がりして再版されたことが分かる。

「青年歌集」特集号

実は、1957年に1冊臨時で出版されたものがある。第5篇（1956年）と第6篇（1960年）の間に臨時に発行された。77ページと通常（140ページ）より半分程度にページ数が少ない。



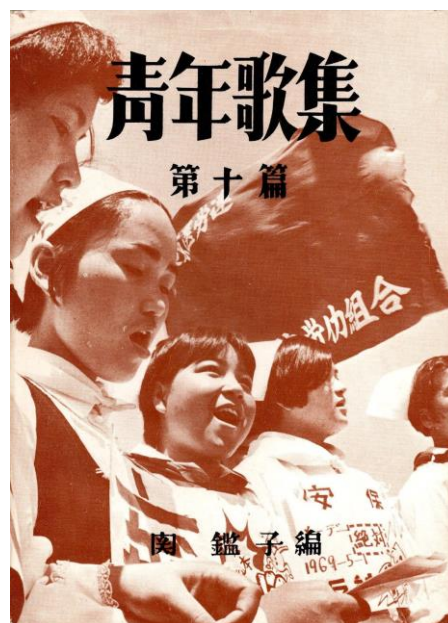
1957年（昭和32年）6月25日発行
1961年（昭和36年）8月15日再版
定価80円、地方売値85円、送料10円
編集者 関鑑子、発行人 野上銀次郎、発行所 音楽センター 第6回世界青年学生平和友好祭記念
特集 平和と友情 1956年ソ連の首都モスクワ

で開催された。日本のうたごえ運動の指導者である関鑑子（せき あきこ）が国際レーニン平和賞を受賞した。

北朝鮮の歌は、2曲収録されている。（歌の番号次々ページに掲げる「青年歌集の朝鮮歌謡38曲」による）

19『美しきわが故郷』朝鮮歌曲、金提善編曲 P43～P44、→元歌：1953年『美しいわが故郷』（アルムダウン ネゴヒャン・아름다운 내고향）朴テヨン（박태연）詞、金福潤曲
＝「青年歌集」第5編（1956年）で紹介済み。
8『海の歌』金舜石作詩、朴韓奎作曲、許南麒訳詩 P44～P45、→元歌：1947年『海の歌』パダエ ノレ・바다의 노래、金舜石詞、朴韓奎曲
＝1970年全編改訂時、第3篇 P88～P89 に収録。

「青年歌集」第10篇



1969年（昭和44年）12月1日発行
定価200円、地方売値205円、送料45円
編集者 関鑑子、発行人 神田国善、発行所 音楽センター 中央合唱団創立20周年記念
北朝鮮の歌は、最大の6曲が収録されている。
何とこの頃にレコード発売禁止問題で大きな関心を集めた北朝鮮の名曲『リムジンガン（臨津江）』が「朝鮮の歌」のコーナーではなく、巻頭の3曲に含まれているのである!!!

『祖国きずく ぼくら』中央合唱団作詞、大西進作曲 P4-5

『リムジンガン（臨津江）』朴世永作詞、高宗漢作曲、李錦玉訳詞 P6

→元歌：1957 年『リムジンガン』（臨津江・림진강）
朴世永詞、高宗煥曲

『ラ・マルセーズ』フランス、ルデュート・リール作詞、作曲、関鑑子訳詞 P7-P11

『リムジンガン（臨津江）』の訳詞をしたのは常連の許南麒（ホ・ナムギ）ではなく在日女性詩人の李錦玉（リ・クムオク）であった。

以下の説明は、フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』による。

李 錦玉（り くむおく、1929 年 1 月 30 日 -2019 年 7 月 2 日 ）は日本の児童文学作家。本名・李金玉。大阪生まれ。金城女子専門学校（現金城学院大学）卒業。2004 年詩集『いちど消えたものは』で第 35 回赤い鳥文学賞、第 9 回三越左千夫少年詩賞を受賞。詩誌「バオバブ」「みみずく」同人。東京都中野区在住。朝鮮民話の再話も多い。

その他の朝鮮の歌は、次の 5 曲である。

36 『つつじ』 ソ・イル・ホン作詞、チョン・トゥ・ Chol 作曲、フォ・ナム・キィ訳詞 P106-P107

→元歌：1962 年『つつじ』（진달래）서일홍詞、전두철曲

35 『ふぶき』 ソ・クワン・ヒ作詞、パク・ハン・キュ作曲、フォ・ナム・キィ訳詞 P107-P109

→元歌：1961 年『ふぶき』（오 눈보라 눈보라）石光輝詞、朴韓奎曲

38 『東海に橋をかけよう』フォ・ナム・キィ作詞、サイ・トゥ・キョク作曲、音楽センター訳詞 P110-P111

→元歌：1969 年『東海に橋をかけよう』（동해바다에 다리를 놓자）許南麒詞、崔東玉曲

33 『黄金のリンゴの木をうえた』キム・サン・オ作詞、キム・オク・ソング作曲、フォ・ナム・キィ訳詞 P112-P113

→元歌：1960 年『黄金の木 リンゴの木をうえた』（황금나무 능금나무 산에 심었다）金尚午詞、金玉成曲。

32 『千里馬進軍』パク・サン・ウン作詞、チョー・キル・ソク作詞、音楽センター訳詞 P114-P115

→元歌：1962 年『千里馬進軍』（천리마 진군）朴山雲詞、趙吉哲曲

「青年歌集」の朝鮮歌謡

以上、戦後日本共産党が指導したうたごえ運動は世界平和を訴えて大いに盛り上がった。

うたごえ運動 20 周年の間に「青年歌集」は 11 冊が発行された。そこには日本の歌ばかりでなく、ソビエトを始め東欧の社会主義の国、西欧、アメリカ、アジア諸国、中国、北朝鮮などの外国の歌も多く紹介された。

今回のテーマである「青年歌集」に掲載された朝鮮歌謡は、38 曲ある。

次のページ「青年歌集の朝鮮歌謡」を参照いただきたい。

内訳は次のとおりである。

南朝鮮の解放歌謡 3 曲

1940 年代の北朝鮮の歌 6 曲

日本人が創作した歌 3 曲

民謡 3 曲

1950 年代の北朝鮮の歌 14 曲

1960 年代の北朝鮮の歌 8 曲

1960 年代の在日コリアンの歌 1 曲

合 計 38 曲

第 1 篇 1951 年初版では南朝鮮の解放歌謡が 3 曲載せられている。朝連（在日朝鮮人連盟 1945.10.15-1949.9.8）の会議の前や集会で大いに歌われた。これらの歌を作曲した金順男（キム・スンナム 1917-1986?）は越北すると北朝鮮でも 9『人民遊撃隊の歌』（第 2 篇 1953 年初版）を創作した。しかし、朝鮮戦争停戦後に彼ら南労党（南朝鮮労働党）系芸術家は粛清されてしまう。

北朝鮮の永遠の大ヒット曲である 4『金日成将軍の歌』が第 1 篇 1953 年改訂版で登場した。

また、日本人になじみの深い 10『建設』が第 1 篇 1951 年初版で北朝鮮の力強い社会主義建設のイメージを広めた。第 2 篇 1953 年初版で民謡 13『トラジ』、14『アリラン』が紹介された。

19『美しきわが故郷』第 5 篇 1956 年初版は、1956 年ワルシャワでの世界青年学生平和友好祭で北朝鮮の代表団から直接教わったものである。

30『平壤は心のふるさと』第 8 篇 1962 年初版や 33『黄金のリンゴの木をうえた』第 10 篇 1969 年初版などが「北朝鮮は地上の楽園」という宣伝に利用された。（終わり）